

平成 24 年度

事業計画書

平成 24 年

公益事業

[1] 美術館事業

① 展示事業—展覧会名とその概要—

(1) 新装開館記念名品展「時代の美—五島美術館・大東急記念文庫の精華」

第一部「奈良・平安」編

- ・平成24年10月20日(土)～11月18日(日)
- ・一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日

古経楼・五島慶太の蒐集事業を、新装開館した五島美術館で改めて紹介する。その質の高い蒐集の第一歩を見つめ、「古経楼」の号のもととなった奈良・平安時代の古写経や古筆断簡、古典籍の数々を公開。慶太翁の美意識の根元から、その足跡をたどる。国宝「源氏物語絵巻」および国宝「白描絵料紙理趣経(目無経)」を特別展示予定。

(2) 新装開館記念名品展「時代の美—五島美術館・大東急記念文庫の精華」

第二部「鎌倉・室町」編

- ・平成24年11月23日(祝・金)～12月24日(振休・月)
- ・一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日(12月24日は開館)

鎌倉・室町時代を中心とする中世の豊かな文化を慶太翁の視線を通して展観する。重要文化財「熊野懐紙」や、重要文化財「北野天神縁起絵巻断簡(弘安本)」など、和歌の隆盛や高度に発達した絵巻物の表現を紹介。重要文化財「延慶本 平家物語」をはじめとする多彩な文芸活動や、のちに茶の湯で愛好された禅宗僧侶の墨蹟も公開する。国宝「紫式部日記絵巻」を特別展示予定。

(3) 新装開館記念名品展「時代の美—五島美術館・大東急記念文庫の精華」

第三部「桃山・江戸」編

- ・平成25年1月5日(土)～2月17日(日)
 - ・一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料
 - ・休館日＝毎月曜日(1月14日、2月11日は開館)、1月15日(火)、2月12日(火)
- 茶の湯に関心を持ち、蒐集をはじめた慶太翁の茶道具を中心に、近世日本美術の優品を展観。重要文化財「鼠志野茶碗 銘 峯紅葉」をはじめとする和物の茶道具にそそがれ

た慶太翁の眼をとらえる。あわせて「鹿下絵和歌巻 本阿弥光悦筆 俵屋宗達下絵」に代表される琳派の造形、「豊臣秀吉消息 おちやちや宛」ほか武将の消息など充実したコレクションを公開。

(4) 新装開館記念名品展「時代の美－五島美術館・大東急記念文庫の精華」

第四部「中国・朝鮮」編

- ・平成25年2月23日(土)～3月31日(日)
- ・一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日

五島美術館は、昭和35年(1960)の開館直前に東洋の古美術を主とする個人コレクションを一括購入しており、これらは所蔵品のうちでも重要な一角を占めている。本展では高梨仁三郎氏のコレクションのうち中国・朝鮮半島の陶芸と、守屋孝蔵氏旧蔵の古鏡を中心に、国宝「六祖挾担図 偃谿廣聞賛」や重要文化財「梅花小禽図 伝 馬麟筆」など南宋絵画の名品、国宝「無準師範墨蹟」など中国の禅宗僧侶の墨蹟等、東洋美術の粋を展覧する。国宝「金銅馬具類」を特別展示予定。

※ 各展示に関連し、出品作品の図版集を作成予定。

② 調査研究事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続する。休館中に行った蔵品調査の遺漏を精査し、正確なデータベースを構築する。

(2) 蔵書・写真の整理

新書庫への移行に伴い、蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、

漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会（大会出席）。

- ・ 各種研究会および研修会参加（染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会）。

（4）美術品の補修

蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの（本体ならびに収納箱）、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。昨年度に引き続き、重要文化財東陽徳輝墨跡、重要文化財継色紙を修理する。

（5）美術品の保存

今後の保存対策のため、所蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また収納棚の一部を改修し、作品を保護するための包裂・箱を順次修理することで、より安全に美術品の保存・管理を行う。

（6）美術品の貸出

他所の美術館・博物館への当館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

（7）博物館界などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議などの活動に積極的に参加するとともに、当館の役割を果たすべく努力したい。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育に協力する。

（8）ホームページの運営

五島美術館の公式ホームページ（URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>）を充実し、インターネット上での美術館や所蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とする 4～5 名とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。創刊号の発行は平成 25 年 3 月 31 日の予定。

③ 普及事業

(1) 友の会

茶の友・美の友・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・招待茶会・展示説明会を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(2) ギャラリートーク（展示解説）—入館者対象

- ・ 新装開館記念展「時代の美—五島美術館・大東急記念文庫の精華」
- * 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する（各展に 1，2 回の予定）。

(3) 茶会（当館主催）—茶の友会会員対象

- ・ 第 1 回＝平成 24 年 11 月 29 日～12 月 2 日の 4 日間
- ・ 第 2 回＝平成 25 年 3 月 14 日～17 日の 4 日間
- * 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(4) 陶芸講座（当館主催）—美の友会会員対象

平成 25 年 1 月 26 日・27 日 予定 定員（各日 40 名）

(5) 美の友会美術講座（当館主催）—美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座（各月 1～2 回）として開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の所蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

・新装開館記念特別美術講座

再開館後の展覧会では、五島美術館と大東急記念文庫の所蔵品から古写経など奈良～平安時代の仏教美術や、和歌を書写した古筆など文学にゆかりの深い名品、唐～宋時代の陶磁などを中心に展示する。これにちなみ、コレクションを彩る書跡・工芸などの美術品をとりあげ、日本・東洋を地域・分野を横断し、解説する。

《担当 五島美術館・大東急記念文庫学芸部》

第 1 回	平成 24 年 11 月 3 日 (土)	「古写経の書風」	名見耶明
第 2 回	11 月 10 日 (土)	「源氏物語絵巻」	渡川直樹
第 3 回	12 月 8 日 (土)	「紫式部日記絵巻」	渡川直樹
第 4 回	12 月 15 日 (土)	「作品と表具裂」	佐藤留実
第 5 回	平成 25 年 1 月 12 日 (土)	「寛永の三筆」	名見耶明
第 6 回	1 月 19 日 (土)	「琳派の造形」	福島 修
第 7 回	2 月 2 日 (土)	「日本の陶磁」	砂澤祐子
第 8 回	2 月 23 日 (土)	「中国の陶磁」	砂澤祐子
第 9 回	3 月 9 日 (土)	「本のさまざま」	島野順子
第 10 回	3 月 23 日 (土)	「版本の歴史」	村木敬子

(6) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ・ 小学校、中学校等へ出張講義に赴く予定 (日程未定)

(7) 展覧会関連行事予定

新装開館記念名品展「時代の美—五島美術館・大東急記念文庫の精華」

期間=平成 24 年 10 月 20 日～平成 25 年 3 月 31 日

レセプション=平成 24 年 10 月 17 日 (水)、18 日 (木)、19 日 (金)

(8) その他

五島美術館の 50 年間の活動をまとめた『五島美術館の 50 年』を編纂・発行する。

- ・ 判型=A4 判 ・ 発行日=平成 24 年 10 月 19 日 (予定)
- ・ 編集=五島美術館・大東急記念文庫学芸部

[2] 文庫事業

① 収集・保存事業

(1) 図書保存

- ・書庫内の参考書誌、図書資料等と和古書との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・書庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期す。新収資料の防虫には特に留意する。

(2) 図書修理

破損の恐れのある保存状態の悪い資料を、閲覧の頻度等を考慮しつつ修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料（辞典、叢書、全集、記録類等）を購入する。

② 展示・公開・調査・研究事業

(1) 図書調査

元政庵瑞光寺等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行う。

(2) 図書閲覧

五島美術館の開館と同時に、従来通り閲覧業務を再開する。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第20回配本「伊呂波字類抄1」、第21回配本「伊呂波字類抄2」、第22回配本「諸芸I」を刊行する。
- ・機関誌「かがみ」第43号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、マイクロフィルム等を頒布する。

(5) 普及

- ・各種団体（大学・研究会・図書館等）の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(6) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(7) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。